

# 八戸市医師会 季刊

NO. 654

令和 5 年 12 月 20 日

八戸市医師会

## 先哲特集号



巻頭言 広報委員苦勞話

(表紙題字：元八戸市医師会理事 小坂 康美)

## 目 次

表紙絵解説	大池 薫	2
☆巻頭言☆ 広報委員苦労話	松橋 英昭	3
☆先哲特集☆		
先哲慰霊祭		5
古今八戸医家先人之霊		7
安ヶ平忠也		
安ヶ平忠也先生の思い出話	千葉 潜	9
長谷川晃子		
長谷川晃子先生の思い出話	村井 千尋	10
“アコちゃん”	長谷川泰正	11
安達 満		
	安達 季之	13
小坂 康美		
小坂康美先生との思い出話	苦米地 怜	15
山崎 潔		
山崎潔先生の思い出	八木 葉子	16
浅水 明子		
浅水明子先生の思い出	金田八重子	18
相馬 剛		
相馬剛大兄に捧げる	縄田 興幸	19
菅原 泰男		
菅原泰男先生の思い出	鈴木 和夫	20
令和5年11月定例理事会		22
【新規開業会員との懇談会】		30
☆学 術☆		
第163回八戸糖尿病談話会		33
八戸精神科医会		34
八戸リウマチ研究会講演会		35
第293回青森県南皮膚科医会		36
第64回日本人間ドック学会学術大会		38・39
第19回日本小児科医会生涯教育セミナー in 秋田		40
☆臨床検査・診療メモ☆ 原発不明癌の免疫染色による検索		41
☆倶楽部だより☆ 八戸市医師会ゴルフニュース (第8報)		43
ドイツ留学思い出昔話42		
所変われば品変わる(10) (ドイツの墓は?)	橋本 功	46
八戸市休日夜間急病診療所利用状況		48
デーリー東北新聞社提供		49・50
八戸市医師会立八戸准看護学院令和6年度学生募集要項		52
八戸市医師会誌投稿規定		53
研修～リレー日誌～		54・55・56・57
会員消息		58
事務局日誌メモ		59
行事予定		59
編集後記		60

## 表紙絵解説

いつか行ってみたいと思っていた小中野のかき氷のお店「タムライス」。『冬にかき氷なんて』と言う友達を誘って、昨年の冬に行って来ました。

お店の中に入るなり、3人とも、わぁ～凄いと歓声!! 北欧風の可愛らしい装飾でまるで夢の中にいるようでした。

かき氷は、ふわふわでとても美味しく、少なめにしてもらったのを悔やんでいました。写真が撮りたくて、何度か通わせてもらい、その時の一枚です。

そのうち行こうと、思っているうちに、また寒くなってしまいました。ストーブで暖まった店内で食べるかき氷もおいしいものです。

(大池 薫)

## 巻 頭 言

# 広 報 委 員 苦 勞 話

八戸市医師会 副会長

松 橋 英 昭

### 編集者の心得

広報委員会に加わりもうすぐ20年目になる。学術論文や報告はともかく、随筆や紀行文など私的な文章をほとんど書いたことの無かった私が、本誌の編集に携わるようになり、はじめは勝手が分からず大いに戸惑ったが、幸いにも故鈴木竹一先生からご指導いただくことができた。先生が自らの考える校正基準を記した『編集者としての経験から一ひとつの提言』と題する文章がある。一部を抜粋すると、「まず、どのような種類の文章かを確認する。論文、随筆、巻頭言などにより方針を変えることも必要である」「作者の個性を損なうことは避ける」「文意がうまく通じない文章では、できるだけ論調を変えないように最小限の補筆、訂正をする」「用字、用語が間違っていると考えられる時は、新聞用事用語集に準ずる」。鈴木先生はこの文章の公表を避けていたため、当時の広報委員で共有するにとどめておいた。今でもたびたび読み返すが、どうすれば最小限の校正で済むのか悩ましい。本誌に投稿していただく方々は皆、高いプライドをお持ちであるから尚のことである。我々の校正が著者に受け入れられず、時には怒りを買って投稿を取り下げられたこともあった。現在は、巻頭言、会務報告、学術の記事についてはレベルを保つために必要な範囲の校正を行うが、随筆や「人・ひと」など私的内容の文章にはできるだけ手を加えないことを旨としている。

### 外部広報の難しさ

平成19年12月から連載が始まった「研修リレー日誌」は本誌の人気シリーズである。研修医の皆さん方に自由な発想で書いていただき、編集に当たってはその個性を損なうことの無いよう努めている。しかし、この研修リレー日誌の一部が地方新聞のコラムに取り上げられ、「未熟な研修医の無邪気な言葉」と批判されるという事件があった。本誌は医療機関だけでなく、

地元の行政機関や報道機関にも送付されているため、一般の方々にも読まれることは想定内である。しかし事前の連絡なしに本誌が批判的に引用されたことは看過できず、当時の高木会長が東奥日報八戸支社に出向き、引用された文章の表現も一般の方々から批判を受けるようなものではないと支社長に申し入れた。幸いこの件以降も研修リレー日誌が脈々と続いていることは真に喜ばしい。我々は、外部からの批判を恐れるわけではないが、一般の人々の誤解を招くことのないよう、今後も外部の目を意識して編集にあたる必要がある。

### 原稿の採否について

常々、原稿集めに苦勞しているので、自発的にご投稿くださる会員がおられるのは真にありがたい。また医療だけでなく行政・文化など様々な分野における識者にも原稿を依頼しているが、多忙な中、執筆依頼に応じていただいた皆様には心からお礼申し上げたい。

しかし残念なことに投稿掲載をお断りしなければならないことも稀にある。商業誌ではないのだから面白い文章でなくても良いが、願わくは会員相互の親睦に資する内容が望ましい。他人への悪口は論外だが、その他にも医師会の不利益になる内容や、掲載に支障があると判断した原稿は掲載をお断りしている。少なからず批判を受けることもあるが、本誌はただの掲示板ではなく、医師会の見解を内外に示す機関誌であるから、ある程度の制約は止むを得ないご理解いただきたい。

### おわりに

先輩方から「巻頭言は本誌の顔です」と言われてきた。拙文が「顔」と言えるレベルなのか甚だ心もとないが、日頃、何に悩みながら委員を務めているかをお伝えしたかった。そんな面倒なことを何故引き受けているのか。それはきっと本を編むのが好きだから。